

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100758		
法人名	医療法人 高信会		
事業所名	真ごころグループホーム	ユニット名	2号館
所在地	宮崎市大字郡司分乙802		
自己評価作成日	平成31年 1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4590100758-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成31年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は高台にあり見晴らしが良く、ホールからの眺めが壮大で開放感がある。玄関前に遊歩道を設ける事で入居者の行動を制限する事無く、自由に散歩や気分転換をして頂いている。また、お一人おひとりに合った関わりを多く持ち、馴染みの関係を築く事に努め、入居者のサインや些細な変化にもいち早く気づき、職員間で情報を共有しサービスの質の向上を図っている。母体は医療と介護の複合施設を持つ辰元病院であり、連携を図りながら利用者様の身体状態の把握、健康管理に努めている。同じ敷地内にある施設や地域の方々との繋がりを図ることで地域に根差した施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療と福祉の複合施設を持つ病院であり、ホームは系列の介護付有料老人ホームと隣接し、相互に連携して運営している。管理者や職員は、利用者が安心して生活が出来るように利用者寄りな理解しようと努め、利用者や職員が一緒になって生活しながら利用者の心身の生活拡充支援を行っている。利用者の喜び、楽しみのある暮らしを支え、馴染みの習わし事を楽しむ地域外出支援や通信・家族等の訪問・家族協力支援などを計画し、その人らしさを引き出すよう努めている。また、働きやすい環境や法人内外での人材育成にも努め、ケアの実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットホールに提示し、理念に基づいたケアは実践出来ている。毎月1回のミーティングで再確認をしたり、ネームプレートの裏に理念を携帯し、常に理念を意識するよう努めている。	管理者は理念を基に、職員へ助言、指導、情報提供を行い、毎月の勉強会で理念を共有するよう取り組んでいる。また、日々の実践を学びの機会として、理念を意識できるように工夫をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りを計画し、同敷地内の施設と合同で地域のボランティアや子供会、消防団に参加を募り、地域との交流を図っている。また、近くのスーパーへ買い物に行ったり、散歩に出掛け、近隣住民との会話や交流を図っている。	隣接の施設と連携して、行事など開催する場合は、地域住民や子ども会、ボランティア等に働きかけて交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協や、地域の模様霜のに参加させて頂き、他の参加者との会話やゲームをしていく上で、認知症に対する理解は、得られている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実態、評価への取り組み状況、事故やヒアリハット、にやりほととの報告を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	その時々話題に沿った議題をあげ、会議の活性化を図る取組を行っている。参加者から出された意見をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者との連絡や協力関係は、母体の本部が行っており、連携を図り情報を共有している。市の主催している研修会等に参加し協力関係を築くよう努めている。	市の担当者との連絡や協力関係は、母体本部が行い、本部から必要情報がホームに伝達される。市主催の研修会等に参加して協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の中で「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含めた内容の勉強会を年に1、2回行っている。また、利用者の行動制限をしないケアに努めている。	研修や勉強会で身体拘束の弊害を理解しながら拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を含めた内容の、虐待防止の勉強会を年に1、2回行っている。認知症に対する理解を深め虐待防止の徹底を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。後見人様との連絡、連携は密に取り情報や状態の共有を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、不安な点や、疑問点を尋ね、納得、安心して利用して頂くよう努めている。又、改定があった場合は速やかに連絡と説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族がいつでも意見、要望が言いやすい雰囲気作りと管理者室に、苦情や意見等を投かんできる箱を設置してある。	双方向の関係づくりに努め、運営推進会議に家族の代表者が参加し、意見や要望を表せる機会を設けたり、利用者の状態報告を家族に連絡している。出された意見は、迅速に職員間で話し合い、対応するよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	誰でも意見や提案が言える職場内の雰囲気作りにも努め、定例会、ユニット会は勿論、その他でも会話する機会を十分に取っている。	毎月の職員会議や日々のケアの中で、職員の意見や要望を聞く機会を設け、サービス向上に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の実績や勤務状況や努力を把握し、年に2回の個人面談を設け目標や向上心を持っているか等を確認しながら就業、環境整備を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を増やし、意識や介護技術の向上に努める。また、日々の業務の中で職員1人1人の実際の力量を把握し、その人に合ったトレーニングを行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や、相互訪問等の訪問を増やし、サービスの質の向上やスキルアップに向け取り組みをしていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時、御本人様が少しでも安心出来るような対応に努めている。入所時は、環境の変化で不安がある為、関わりを多く持ち傾聴に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に御家族様が抱えている問題をできるだけ理解し、安心出来る支援方法を一緒に考える。支援内容は、適宜報告している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査時の情報から、御家族様と御本人様が必要としている支援を見極める為に、常に観察と傾聴に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共に支えあって楽しさや達成感等を味わえるように、信頼関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様や御家族様の状況を踏まえ、可能な限り、御家族様へ協力を頂けるような信頼関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に気軽に来て頂けるような雰囲気作りを中心に心掛けています。又、馴染みの場所や人との関係が途切れないように、手紙や年賀状を出す支援を行っている。	家族等の訪問や馴染みの商店での買い物、地域の人達との会話や地域の習わし事への参加、知人との葉書のやり取りなど関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話やすい利用者同士が関わり合い、支え合う大切さを実感して貰うように、さりげなく見守りを行っている。又、レクリエーションでコミュニケーションを取りやすいような支援もしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、転居先に情報提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で会話や表情で利用者の思いを感じ、職員間で情報の共有や意見交換を行い日々のケアに活かしている。御家族からの意見や要望と情報は頂いている。		寄り添うケアの中で、利用者の言動から、その思いを十分にくみ取することを心がけている。また、家族や関係者からの情報も収集し、職員間で情報の共有を図り、意向の把握が困難な場合は、本人本位に検討するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の情報を基に、御家族様や御本人様からも意向を探る等、生活が継続出来るように努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間では、常に状態や情報の共有を行い、身体状態の把握や変化にすぐに気付けるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様、御家族様、職員から意見を聴き、御本人様にとって何が重要かを担当者会議で話し合い現状に合った介護計画を作成している。随時見直しを行い御家族様の要望を伺い、変更がある場合は介護計画を見直している。		本人や家族と話し合い、職員や関係者の意見を反映した利用者本位の介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、状況の変化に応じて適切に見直しを行うよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の身体状態の様子やケアの内容、気づき等は、個別に記録し定期的に評価を行い、介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様に協力を頂き、医療機関や専門職のアドバイスを受けながら、連携を図り個人のニーズに合わせた対応が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、社協から情報を貰い地区の行事参加やボランティアの訪問をして頂き、御家族様や職員以外との交流を設けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に細かな情報提供を行い、指示を仰いでいる。受診困難な方は、無理が無いように定期往診への切り替えを行っている。	利用者や家族が希望する医療機関で受診することができ、母体の病院等からの往診も定期的にある。他科受診時は、家族や、職員間で情報の共有化を図り、適切な医療が受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な状態変化や気づきがあれば看護師へ報告し指示を仰いでいる。又、看護師へは昼夜関係なく状態の報告や指示を仰げるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを作成し情報提供を行っている。入院中は、出来るだけ面会に行き、病院関係者と情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合における対応の指針を説明し、理解を頂いている。又、重度化した場合は、主治医と連携を密に図りながら御家族様、職員間で話し合い、方針を決めている。	利用開始時に指針を示し、同意を得ている。重度化および看取りについては、利用者の状態によってホームで出来ること、出来ないことを踏まえ、母体病院等と連絡を図り、随時、利用者や家族の意思を確認して支援するよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルの見直しを定期的に行いつつ、救命蘇生法等の外部研修に参加し、個人の知識や実践力を身に付けたいと思う。職場内での勉強会も行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の避難訓練と年に2回の総合訓練を実施している。色々な状況を想定し課題の把握や改善が出来るように努めている。地元の消防団も参加して貰っている。	避難訓練に地元消防団も参加して、地域住民との協力体制づくりに取り組んでいる。毎月1回のユニットごとの避難訓練と年2回の総合災害訓練を実施している。非常用食料・備蓄の準備がある。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や意思を尊重しながら、その人に合った支援を提供している。常に態度や表情、言葉使いに気を付け対応している。		利用者の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり、丁寧に、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定が常に出来るように、表情や行動を見守り、働きかけている。買い物や気分転換のドライブ等を実施している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、自分の常識に捉われる事無く、く時々の本人の意思や気持ちを汲み取った支援を行う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型を整えたり、御本人様が望まれる洋服を着たり又は、一緒に選んだりして、御本人様の意向を取り入れながら支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の口腔体操時に、メニューを発表している。又、利用者の好みや摂取状態を把握し取りやすい形態や代替メニューの提供をしている。定期的に、食事会を設けてお寿司の日等の企画をしている。	主食とみそ汁をホームで作り、副食は、母体本部から運ばれる。職員は、利用者に話しかけたり、介助をして、下膳も一緒に行っているが、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるまでには至っていない。	ホームの基本である、共に暮らすという点から、一緒に食事を楽しむことの意味は大きいので、利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりを検討することに期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い1人1人の状態の把握をしている。又、管理栄養士が栄養のバランスを考えたメニューを提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔ケアを実施している。難しい方には、時間や場所の工夫等をし、適切な支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、表情や言動、行動で素早く察知しトイレ誘導する事で、失敗の軽減に努めている。		排せつチェック表や利用者の表情、言動から排せつパターンを把握して、可能な限りトイレで排せつできるように自立に向けた支援をしている。また、紙パンツや尿取りパッドの量を減らすよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが難しい方には、Drの指示のもと、緩下剤を使用しコントロールをしている。又、細めな水分補給を行い、食事は管理栄養士がバランスの良い食事の献立を考え提供している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を行う上で、皮膚の観察が出来、洗身や更衣が出来、清潔にともつことが出来た。又、拒否がある場合は、職員の交替等の工夫を行い、本人のタイミングで入浴をして貰うように、努める。		本人の希望や気持ちを優先させた入浴を支援している。個別の入浴支援を行い、利用者の心情を察した配慮をしている。入浴剤や音楽を流し、くつろいで入浴が出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は出来るだけ、安眠していただけるような支援をしている。又、居室へ訪室しそっと確認などの巡回を徹底している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がある方には、手渡し・飲み込み確認まで行い、チェックもしている。又、服薬の効果と副作用等は理解している。吐き出す事もある為、飲み込み後も観察を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の趣味や興味を見つけ楽しみや、出来る事を増やし、意欲ある生活をして頂いている。又、定期的にドライブい出掛け気分転換の支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関鍵は施錠せず、自由に外へ行かれ自分のペースで歩かれている。遊歩道があり、安全に歩かれ、玄関先にベンチを設置しているので、休息も出来ている。		五感刺激が得られるように、玄関前の遊歩道での散歩を支援し、買い物、地域行事への参加や、また家族の協力のもと外食や外出等の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーに行き可能な方にはお金を渡し、買い物をする楽しさやお金の大切さを感じて頂く。金銭の管理は、施設で行う。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が利用者の前で、ダイヤルを押し対応を行う。この時、話して頂く事もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人掛けソファ4台、3人掛けソファが1台ホールに設置しつろげる空間の提供と室内の温度湿度計をホール内に設置し、管理している。季節に合った、絵などを作成し掲示している。	生活空間は、違和感や圧迫感が感じられないよう配慮し、利用者同士で自由に過ごせるよう居心地よい空間作りの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の物の位置を工夫し、気の合った利用者同士が気にせずに話等が出来るような空間作りに努めている。会議室を安らぎの場とし自由に使用出来るようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力により、テレビや必要な物又、馴染のある物を置いて頂く。居心地良く、過ごせるように努める。	使い慣れた家具や椅子、生活用品、装飾品が持ち込まれ、安心して過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が送れるように見守りをし、御自分で出来る事は、可能な限り本人のペースでして頂く。			